

## 県立広島大学・ひろしま美術館連携講演会「楽しもう 絵本の世界」を開催しました

平成18年9月21日(木)、ひろしま美術館の特別展”創刊50周年みんなのともだち「こどものとも」の絵本展”にちなみ、講演会「楽しもう 絵本の世界」を開催しました。

● 人間文化学部の猪木省三教授は「絵本と子どもの発達」のテーマで、(1)生活経験、(2)ことばの発達、(3)お話の理解、(4)文字への興味の4つの面から、絵本と子どもの発達との関わりについて話しました。子どもは絵本やお話を通して喜怒哀楽などの情緒を理解し、また、繰り返し聞くことで物語の筋や枠組み、概念を獲得していきます。「生活経験を重ねて人生を紡ぐ」という指摘には、多くの方が感銘を受けました。



● ひろしま美術館の水木祥子学芸員は「はじめての美術～絵本の魅力～」のテーマで原画と絵本の2つの面から、子どもがはじめて出会う美術としての絵本の魅力を探りました。原画からは、作者の線や彩色など、画材の魅力がじかに伝わってきます。油絵、切り絵、刺繍、スタンプなど、さまざまな素材と技法を用いた原画の魅力が、スライドを通して語られました。



また、絵本の「めくる」機能や画面の方向性、色の効果などの解説は新鮮で、登場人物にとってマイナスの要因や反動的な力が働くときには、画面の流れと逆の方向に絵が描かれるという「逆勝手」の話は、とくに印象に残るものでした。

● なお、講演会と同時開催で、絵本サークルや読み聞かせサークルの活動展示と、図書館での「こどものとも復刻版展示」を行い、図書館の一般開放にも高い関心が寄せられました。



講演会には約200人の参加者がありました。小さなお子さん連れのおかあさんが目立ち、若い方々の学習意欲が感じられました。本学では、これからもさまざまな世代の皆さまのご要望にお応えできるよう、学習機会の提供を通じた地域貢献に務めてまいりたいと思います。

